

キャンピングカーライフ を満喫しているユーザーの 遊び方 楽しみ方

enjoy!
Campingcar
life

キャブコンの機動性を生かして 夫婦で日本全国「くるま旅」。

CASE. 1 夫婦×キャブコン 原田 勇さん/亮子さん



学生時代、自転車北海道の宗谷岬をはじめとする日本中を旅していた原田さん。旅のツールとして、バンコン、欧州モーターホーム、国産キャブコン2台を乗り継いできたキャンピングカー歴20年以上のベテランオーナーだ。

現在は、2.8kWのリモート式発電機を搭載したキャブコンに乗っているが、キャンピングカーと旅のベテランだけあって、その遊び方は実に豪快！ 原田さんが昔から一番好きな場所である北海道の「春夏秋冬すべてを味わいたい」と、気候のいい春～秋だけでなく厳冬期の2月にキャブコンで本州から北海道に上陸。スタッドレス履きの4WD車で、1カ月かけて北海道をほぼ1周してきた。宗谷岬の雪景色を堪能したり、知床で流水ウォークを体験したり、然別湖で世界唯一の氷上露天風呂に浸かったり、糠平湖やオンネトーをスノーシューで散策したり……、本州では見られない景色を思う存分味わってきたそうだ。

そうした旅を実現できたのも、キャンピングカーがあってこそ。然別湖では氷点下23℃の極寒の中で車中泊を経験したが、FF

ヒーターで車内は常に20℃をキープ。FFヒーターを消すと給排水パイプ内の水が凍るほどの寒さだったが、まったくストレスのない快適な旅ができたという。

「有名な観光地はほとんど行かない」という原田さんは、1年を通して全国の海、山、川を訪れて、自然の中でアクティブに遊び倒している。なかでも、とくに好きなアウトドアアクティビティがカヤック。フジタカヌーのファルトボートをキャブコンに積み込み、これまで関東近郊の湖から北海道の朱鞠内湖・支笏湖・屈斜路湖、岩手の岩洞湖、鹿児島島の池田湖などでパドリングを経験。北海道や四国で川下りをしたり、北海道や西伊豆でシーカヤックをしたりと、さまざまな場所で季節ごとに変わる景色を水上から楽しんできた。

そんな原田さんのワイルドさに負けず劣らず、奥さまの亮子さんも実にパワフル！ 原田夫妻のくるま旅は3食自炊が基本で、もちろん炊事はすべて車内のキッチンで行っている。そのため、現在のキャブコンを購入する際も、亮子さんがキッチンをしっかりチェックして「実際に使えるサイズのキ

ッチン」を備えたモデルを選んだという。「出かけた先の市場やスーパーで手に入れた食材を、その場で調理して食べられるのがキャンピングカーのいいところですね。山菜を採って車内で天ぷらにしたりもしますし、地元で魚を買ってキャンプ場で干物にしたこともあります」。奥さまの亮子さんは、キャンピングカーのキッチンで大きな魚をさばくのもお手の物。これまでに、地元の市場で手に入れたアンコウや寒ブリ、白子がたっぷり入った7kgの真鱈、10kgのカツオなどを車内のキッチンでさばいた経験があるというから驚きだ。

定番の観光地を巡る旅ではなく、カヤックやスノーシューなどを使い自らの五感でその土地の魅力を味わうのが原田さん流。さらに、その土地の美味しい食べ物を現地ですぐに手に入れ、車内のキッチンで調理してその場で美味しくいただく。キャンピングカーをツールとして使い倒し、日本中をアクティブに駆け回る原田さん夫妻。惚れ惚れするほど豪快で魅力的な2人のキャンピングカーライフは、これからも末永く続いていくことだろう。



**基本は3食自炊。
車内で大きな魚をおろすことも！**

旅の食事は3食自炊が基本。行く先々で新鮮な食材を手に入れ、車内で調理して食べるのが楽しみのひとつだ。時には、市場で調達した寒ブリやアンコウ、カツオなどの大型魚を車内のキッチンでさばいて食べることも！



キャンピングカーで厳冬期の北海道へ！

2月に北海道に渡り、道内をほぼ一周。マイナス20℃以下の極寒でもキャンピングカーがあれば快適に生活できたという。あまりの寒さに、走行中ホイールのセンターキャップからツララが伸びてウニのような状態になってしまった。



**カヤックで陸からは眺められない
景色を楽しむ！**

積載力のあるキャンピングカーならカヤックの運搬もラクラク。北海道・雄冬でシーカヤックをしたり、十和田湖で水上から美しい紅葉を眺めたりと、各地でカヤックを楽しんでいる。



明日はハイキングへ

美味しいモノがある所が良いわね！



キャンピングカーの旅が 家族の絆を深める！

CASE. 2 ファミリー＋愛犬×キャブコン

井上 守さん／真純さん／瑞希ちゃん／雫ちゃん



もともとテントキャンパーだった井上さんが初めてのキャンピングカーを購入したのは、今から約7年前のこと。仕事の休みが不規則で遊びの予定を立てづらいことが悩みだった井上さんは、1人目の子供が生まれたタイミングでキャンピングカーの購入を検討し始めたという。その理由は、「子供を連れて安心して遊びに行ける」「突然の休みでも思い立ったらすぐに出かけられる」というキャンピングカーのメリットに魅力を感じたからだ。

初めて購入したキャンピングカーは、都市部に多い自走式の立体駐車場にも入庫できるポップアップルーフ仕様のバンコン。実用性と居住性を両立したポップアップルーフの恩恵を生かし、くま旅やキャンプはもちろん、子供たちの送迎や買い物まで、1台ですべての用途をこなしていた。そして、愛車のバンコンをマルチに使い込むことで、ますますキャンピングカーの魅力にはまった井上さんは、子供の成長と共にバンコンからキャブコンへの乗り替えを決意。居住性と快適装備の充実度を考慮して、今から3年前に現在のキャブコンを購入した。

乗り替えにあたってこだわったのは、5×2mのボディサイズ。自宅の車庫に駐車でき、どこでもストレスなく走れて出先でも駐車場に困らない、日本の道路事情にピッタリのサイズだ。愛犬と共に旅するのが前提のため、安心して愛犬を車内で留守番させられるようにサブバッテリーで稼働する家庭用エアコンにもこだわった。ほかに、シート生地を毛が付きにくく掃除しやすいレザーに変更したり、エントランスの横にリード固定用のフックを装着したりと、細部の変更で自分の使い方に合ったキャンピングカーへと仕上げた。

キャブコンが納車されて以来、広々とした室内空間と高い断熱性能、装備の充実度に家族全員が大満足。子供たちにとっても、キャブコンの車内は秘密基地のようにワクワクする空間だ。仕事が休みの時は、家族と一緒に大型遊具やアスレチックのある公園に出かけるのがポピュラーな過ごし方だが、家族や仲間とオートキャンプを楽しむことも多い。キャンプに行った時は、「テント時代と比べて設営・撤収がラク」というキャンピングカーのメリットを改めて

実感するそうだ。

また2年前の夏には、バンコン時代からずっと夢見ていた北海道でのくま旅を実現。青森まで自走してフェリーで函館に渡り、トータル9日間の日程で函館～ニセコ～小樽～旭川～稚内～美深～名寄～士別～美瑛～富良野～苫小牧を巡る旅をした。短期間ながらも、走行距離は約2300km。日本最北端の宗谷岬、旭山動物園などの観光地だけではなく、念願だった北海道でのキャンブも体験することができた。ほかに、スキーやラフティング、ハイキングなどのアウトドアアクティビティにもキャンピングカーを積極的に活用。ある年には、お出かけ中にケーキヤローストチキン、シチュー、ミニツリー、サンタの帽子を用意して、キャンピングカーの車内でクリスマスパーティーを楽しんだことも。

「ちょっとした休みでも、予定を立てずに自由な旅ができるのがキャンピングカーの魅力ですね」と井上さん。子供たちと過ごす時間をより充実させ、家族の絆を深めてくれるキャンピングカーは、ファミリーユーザーにとって最高のツールなのだ。

家族のキャンピングカーには、
姉妹にも、ワンちゃんにも、居心地の良い場所がある。

「うちのキャンピングカーの
秘密基地だよー！」



バンクベッドは子供たちにとって「秘密基地」のようなお気に入りの場所。



家庭用エアコンが搭載されているので、
愛犬を車内で留守番させるのも安心。



リア常設2段ベッドの端に犬用ケージを設置。
愛犬が落ち着ける場所を作った。



シート生地を愛犬の毛が付きにくいレザー素材に変更。
掃除もしやすい。



来たぞ！
憧れの北海道！



キャンピングカーで家族との時間が充実！

子供2人と愛犬を連れて気軽に遊びに行けるのが、キャンピングカーの魅力。おかげで、公園遊びやキャンプ、スキー、ラフティングなど、アウトドアレジャーを楽しむ機会も増えた。2年前の夏には、家族そろって念願の北海道くるま旅も実現！



7頭の愛犬と一緒に楽しむ キャンピングカーライフ!

CASE. 3 夫婦+愛犬×バンコン

上野徳康さん／久美子さん



サイドオーニングの下に折り畳み式の大型ケージを設置するのが定番のスタイル。

オーナーの上野夫妻は、愛犬7頭と共に充実したキャンピングカーライフを送っている。もともとバンコンを購入しようと思いついたキッカケは、ドッグショーへ行くのに不便を感じたから。以前はミニバンに乗っていたが、多い時で年間40~50回は全国各地のドッグショーに出かけていたという。しかし、ミニバンでは車内が狭く、車中泊も快適とは言いがたい。そこで、広大な車内空間を持つハイエース・スーパーロングベースのバンコンを購入することを決意。たまたまホームページで見つけた車両をすぐにお店まで見に行き、その場で契約してしまったというから、その行動力にも驚きだ。

愛車のバンコンは車内が広くて断熱性に優れ、しかも4WDなので冬場でも安心してドライブできる。おかげで、愛犬との旅が

ミニバンとは比べ物にならないほど快適になったそうだ。フロントに愛犬がくつろげる自作のセンターコンソールを設置したり、常設2段ベッドの下段にペットシートを敷き詰めてトイレスペースにしたりと、車内には7頭の愛犬と快適に過ごすためのさまざまな工夫が凝らされている。

何より「思い立ったらすぐ、愛犬と一緒にどこへでも出かけられる」のが、車内で生活・就寝できるキャンピングカーならではのメリット。キャンピングカーのおかげで遠方のドッグショーへも快適に出かけられるようになったほか、キャンピングカー仲間とのオフ会に参加したり、気ままに行きたい場所に出かけてその土地の美味しいものを味わったりと、愛犬と共に今まで以上にアクティブな休日を満喫しているそうだ。



リアのマルチルームは、ケージやキャンプ道具の積載スペースとして活用。



愛犬のためにベニヤ板とビニールレザーで自作したセンターコンソール。



2段ベッドの下段は、ベニヤ板とペットシートを敷き詰めてトイレスペースに。

趣味の可能性を広げるキャンピングカーの魅力！



趣味のレース観戦のために 軽キャンパーを購入！

CASE. 4 F1観戦×軽キャンパー

高橋久雄さん／仁美さん

高橋さんの趣味は、鈴鹿サーキットでのレース観戦。国内開催のF1観戦の際、鈴鹿サーキットのオートキャンプ場を利用してF1ウィークとことん満喫できるように、キャンピングカーの購入を決意したという。そんな鈴木さんの愛車は、軽トラックベースのトラキャン。小回りが利くため道を選ばず走れ、出先で駐車場に困ることもない。そうした軽キャンパーの利点を生かし、レース観戦のほかに長距離のくるま旅や普段の買い物などにも愛車をフル活用している。ベース車両に、「軽トラのF1」の異名を持つ縦置きミッドシップレイアウトのホンダ・アクティをチョイスしたのも、レース観戦が趣味の高橋さんらしいこだわりだ。

愛車のバンコンは天体撮影のベース基地！

CASE. 5 天体写真×バンコン

大谷英樹さん

ハイエースベースのバンコンを活用して、趣味の天体撮影を楽しんでいる大谷さん。天体撮影では、カメラやレンズのほかに三脚、コンパクト赤道儀、ヘッドランプ、防寒グッズなどさまざまな機材や道具が必要になるが、バンコンの積載性を生かせばすべてスッキリと収納できる。美しい星空を求めて、長野の高原や富士山周辺、岐阜や新潟、時には青森まで遠征。撮影は深夜まで及ぶが、撮影後に車内のベッドでゆったりと就寝できるのが一番の魅力だとか。翌朝、地元の温泉施設で朝風呂に浸かるのも楽しみのひとつ。長距離を移動することが多いため、走行性能と乗り心地に優れたバンコンにこだわったそうだ。



花火大会行脚と打ち上げ基地に キャブコンを活用！

CASE. 6 花火×キャブコン

相馬 功さん

花火師の資格を持つ相馬さんは、キャブコンを「花火のため」に購入したという。秋田・大曲、新潟・片貝&長岡、茨城・土浦など、各地の花火大会鑑賞に出かける際は、愛車のキャブコンを宿代わりに使用。自身が立ち上げた花火打ち上げ団体「疾風迅雷組」でプライベート花火大会を開催する際にも、機材を運搬したり、車内で仕込みをしたり、大会本部代わりに使用したりと、車内空間の広いキャブコンの利点をフルに生かしている。花火大会で撮影した映像を鑑賞するために、ダイネットにはプロジェクターも設置。相馬さんにとってキャンピングカーは、趣味の花火を充実させるために欠かせないツールなのだ。

